

4月14日から連続して発生している熊本地震は甚大な被害をもたらしました。被災地の皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

現在会員登録数 1,928 人さま。次号は5月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 68

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 国際フォーラム「いま、アメリカの子どもの本を考える」 参加者募集プログラム：

(1) 「アメリカの子どもの本は、何を語ってきたか」

講師：レナード・マーカス（歴史学者、児童文学評論家）

(2) 「アメリカの子どもの本を、私たちはどう読んできたか」

講師：三宅興子（児童文学研究者、絵本研究者）

(3) 対 談

通 訳：前沢明枝（翻訳家）、横山カズ

日 時：5月22日（日）午後1時～4時

会 場：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）

対 象：子どもの本に興味のある方ならどなたでも

定 員：80名（申込先着順）

参加費：1,000円

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

共 催：日本イギリス児童文学学会

協 賛：パナソニック株式会社/サントリーホールディングス株式会社/

株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート/

ムサシ・アイ・テクノ株式会社

* 子どもゆめ基金助成事業

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#280522

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充

てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Jun's Talk

『ハルと歩いた』 西田俊也/作 徳間書店 2015年12月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：陽太は父と二人暮らし。父が原発に関わる仕事を辞めたため、東京から亡くなった母の故郷である奈良に一年前に引っ越してきた。陽太が小学校の卒業式から一人で帰っていると、ホームレスの男性が迷い犬を陽太に託して飼い主を見つけて欲しいと依頼する。その日から陽太は犬と町を歩きまわって飼い主を探す。

Y：コミュニケーションがテーマになった本と思いました。

J：まずは父と息子の関係。陽太は父親をナオと呼んでいるけれど、中学生になったら「父さん」と呼ぼうと決めている。でもうまく呼べなくてどこかぎこちない。このへんの描写はうまいですね。

Y：ナオというのは、父から与えられた対等な関係。それを中学生になって陽太が「父さん」と呼ぼうと決める。それは父という役割を求めるとも愛情を求めているとも読めるかもしれない。

J：父親がガードマンをしている現場に犬と散歩に行き、一緒に弁当を食べながら語り合うことなどを通して素直に「父さん」と呼べるようになります。ただ、原発のことも含めて、二人の関係をもう少し突っ込んで描いて欲しいという気もしました。それから犬との関係。心を許せる者が出来たことの幸せが感じられ、作者の犬へのあたたかいまなざしが伝わってきました。

Y：陽太が一番心を許すのがこの犬ですが、この犬は飼い主が見つかるまでだけの一時的な関係として始まります。そして、陽太は町を歩きながら年齢、性別、国籍などの異なるさまざまな人と出会いますが、それは、全て犬を介した出会いです。陽太と犬の関係性、陽太の人との出会い方に現代のコミュニケーションの難しさ、不安定さを読みました。

J：一方で、町を歩いて人と出会うことで、自分の居場所を見つけていくというアイデンティティの発見の物語として描かれているということも言えます。関係という意味では久留實（くるみ）という少女に対するほのかな恋愛も描かれていました。また、犬の本当の飼い主との出会いは、町のおじいさん、おばあさんとの出会いでもあります。

Y：陽太が卒業した小学校は亡くなったお母さんが通っていた小学校で、お母さんもペットを飼っていて交通事故で亡くすという経験をしていました。また、両親が結ばれた場でもありました。陽太にとって町を歩くのは母親と出会う体験でもあったと言えます。

J：「飼い主探し」という謎解きで読者を引っ張りながら、小学生から中学生になるはざまの時間を描いた作品として興味深く読みました。

* 今回のゲストは当財団の遠藤純理事・特別専門員（J）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第8回「狼森と笹森、盗森（オイノもりとざるもり、ぬすともり）」

何が大切だったのか

小岩井農場の北にある四つの黒い松の森、一番南の狼森、そして、笹森、黒坂森、北のはずれの盗森、これらの森が、いつどうしてできたのか。どうして、こんな名前なのか。黒坂森の真ん中の大きな巖（いわ）が「わたくし」に語ります。

「かしわばやしの夜」（本メルマガ NO. 66 第6回参照）の柏の木大王は、柏の木を98本も切った清作をひどく怒っています。清作と柏の木大王のあいだには、きちんと「交換」が行われなかったわけですが、「狼森と笹森、盗森」は、人間たちと森との「交換」の物語として読むことができます。

ずっと昔、岩手山の噴火がようやくしずまり、四つの森ができると、家族をつれた4人の百姓たちがやってきます。そこが気に入った男たちは、それぞれ好きなほうを向いて、声をそろえてさげびます。——「ここへ畑起してもいいかあ。」「いいぞお。」と森が一斉にこたえます。「ここに家建ててもいいかあ。」「ようし。」「ここで火たいてもいいかあ。」「いいぞお。」「すこし木貰ってもいいかあ。」「ようし。」森とのやりとりがつづきます。

森は、冬の北風から人間たちを守ります。春になると、蕎麦と稗が播かれ、秋には穀物が実ります。すると、森は、幼い4人の子どもを連れ去るのです。狼森で子どもたちを見つけ出し、つれもどした人間たちは、森に粟餅をそなえます。翌年は、うばわれた農具が笹森にあり、そのまた次の年は、なくなった粟が盗森にあったのですが、同じようにとりかえし、粟餅をそなえるのです。

「狼森と笹森、盗森」では、人間たちと森のあいだを毎年いろいろなものが行き来し、交換されます。そして、交換の場は、いつも交換されるものに価値をあたえます。ただの紙切れのはずの1万円札が、いろいろな品物やサービスと交換されること（買うこと）によって、価値をもつというふうなんです。物語のなかで行き来したのも、価値をおびていくことになります。すなわち、子ども、農具、粟が大切なものとして確認されることになるのです。

（馬車別当）

（本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。）

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 68

その9 おはなしを語る（4）語るポイント7

おはなしを語る時は、動作をすべきではないということをよく聞きます。語り手の動きが気になって、子どもたちが聞くことに集中できない様子を見ることがあります。複数の登場人物の動きを連続的にするので、誰が誰だか

わからなくなり混乱を招いていることもあります。また、語り手がおはなしを動きとともに覚えていて、おはなしの続きを思い出すために体を動かし、変な間ができてしまっていることもあります。そういう意味では、動作をすべきではないと言えるでしょう。

しかしながら、手足を動かし、体を揺らすことはなくても、視線を変えることで、おはなしの人物が目の前に現れるような経験は何度もしたことがあります。人間の少女と巨人が話し合う時、見上げるようにして声を張り上げる少女と見下ろしながら声を下に落とす巨人であれば、視線も自ずと変化します。

といて視線以外には体を全く動かしてはいけないとは思いません。けれども、もし、体を動かすとすれば、演劇的な要素が入ることになりますので、全体の語りでの効果が計算できること（演出）と、洗練された体の動きが必要だと思います。

一方、人前で語る時には動作をしなくても、自分だけ、またはグループで練習をするときに、体を動かしながら語ってみることはイメージを確認する意味で意義があります。例えば、主人公が「パンを食べました」と語る時、ぱくぱく食べるのか、ちびちび食べるのか、目の前にはどれぐらいの食べ物があるのかなど、イメージしている時としていない時で、語り方が変わります。

このように、登場人物の動き、人物どうしの位置関係、空間のイメージ、時間の経過など、言葉になっていない部分でイメージし、語るべき部分はたくさんあり、練習で実際に体を動かしてみることは、豊かな語りにつながっていきます。

*次号は「その10 学校でのおはなし会（1）」の予定です。
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

《4》 行って来ました！

伊丹市立美術館で5月15日まで開催されている、「エドワード・ゴッリーの優雅な秘密展」に行ってきました。

エドワード・ゴッリー（1925～2000）は、『うろんな客』や『ギャシュリー クラムのちびっ子たち』など、少し残酷で不気味な感じの絵本が人気の作家です。原画、草稿、書籍など約350点が3章に分けて展示されています。

第1章「主著：ゴッリーによるゴッリーの世界」は、絵も文もゴッリーが作った作品の展示です。最初に洋書の絵本が表紙の絵を見せてずらりと並んでいて、自然にゴッリーの世界に引き込まれていきます。原画のほとんどは、彩色されていないモノクロの線画です。本のサイズに合わせて小さいものが多く、目を凝らして見ていきました。ペンで細かく引かれた線の重なりはめまいがしそうなくらいです。背景の壁紙や床の様子がびっしり描きこまれている中に、人物だけが白っぽく浮かびあがっていて、不気味さを感じます。一

一つに原文を思わせるような、韻を踏んだものや古い言い回しの解説がつけられていて、ストーリーを想像しながら楽しむことができました。

第2章「イギリスの詩・文学とゴリーの挿絵」では、ゴリーが出版社に勤めていた時に表紙デザインや挿絵を担当したペーパーバックのシリーズ、子ども向けの本の挿絵の原画などが展示されています。ゴリーがH・G・ウェルズの『宇宙戦争』の挿絵も描いていたとは知りませんでした。タコのような宇宙人が表紙に描かれていて、中の絵も見たいと思いました。

第3章「ゴリーの多彩な創作と舞台美術」では、母に送った絵封筒がカラフルでとてもきれいです。鳥が空中ブランコに乗っていたり、雲の階段を登っていたりする不思議な絵柄で、手紙にはどんなことが書かれていたのかな、と気になります。ブックフェアのポスターには猫が描かれていますが、猫好きのゴリーは、絵の中で猫だけには不幸な目に合わせないのだそうです。こうしたエピソードに頷きながら多彩な作品を一度に見ることができて、とても満足感のある展示でした。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 第26回 箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：4月15日（金）～5月15日（日）必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）
・一般の部A部門（当コンクール入賞経験者）
・一般の部B部門

主催：箕面市教育委員会 / 人と本を紡ぐ会

問合せ：箕面市立西南図書館「モモ 人と本を紡ぐ会」事務局

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ハルと歩いた』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.68プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は5月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

降りやまぬ雨はないというけれど、熊本地震はいつ鎮まるのか。絶え間ない地震速報は止むことを知らず、「前例のない」自然の脅威の前にただ立ち尽

くす…。

防災ハザードマップが各家庭に配布され、我が家が、浸水想定区域と知り、活断層の上だと知っても、おいそれと逃げられない現実がある。命運は“地”に任せるのみか…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
